

＜下水道「ビジョン」を提案＞
事業のロードマップを見える化

「下水道ビジョン」を提案

水コン協 事業のロードマップを見える化

4日、東京ビッグサイ
ト会議棟で、全国上下水
道コンサルタント協会
道「将来を描く『下水
道ビジョン』の提案」が



牛原委員長



東副委員長

開かれた。

下水道ビジョン（下水
道総合計画）は、各都市
における下水道事業の中
長期的な方針を体系的に
まとめ、マスタープラン
に基づき策定する。各施
策の優先順位や目標、収
支の見通しなど5～10年
間のロードマップを見
える化することで、効

率的な事業運営の実現に
加え、利用者と下水道管
理者が情報を共有できる
などのメリットが期待さ
れる。

前半は、東正史・関東
支部下水道委員会副委員
長（NJS）が、ビジョ
ン策定の背景と目的、コ
ンセプトを紹介。地域の
ニーズや問題点を下水道
に結びつけて住民の関心
を事業に反映すること
や、大学の教授、住民を
加えた委員会方式で検討
を進めることが、利用者
との相互理解を深めるポ
イントだとした。

平成28年度にコンサル
タントが行った調査で
は、過去3年間に34件の
策定実績があり、政令都
市以外で対象事業を多く
抱える都市では、委員会
を設置して検討している
ものの、住民が参画して
いる例は少ないという結
果が出ている。

後半は、ビジョン策定
後の展開と具体的な策定
例などについて、牛原正
詞・下水道委員会委員長
（日本水工設計）が説明
した。

策定後の展開として
は、3～5年後に事業の
進捗状況を評価し、結果
を住民に公表、さらに新
下水道ビジョンへのフィ
ードバックというPDCA
サイクルで向上を図る
ことが望ましいとした。
水コン協では、主体とな
る地方公共団体でビジョ
ンの策定が困難な場合
に、会員が業務受託など
により支援する方法も検
討している。また、策定
後の具体的な実行（D）
や、事業進捗の確認（C）、
新ビジョンの改定（A）
の支援もしていきたいと
している。なお、策定作
業の説明資料は、協会H
Pでも見ることができ
る。